

杉ノ沢

一九八五年五月一九日

水の少ない出合を出発。すぐ上流には国道一三号にかかる大きな橋があり、そのためか、沢はジューズの空き缶やゴミが多い。右岸には水を運ぶパイプが通っている。二万五千分の一地形図にはゴルジュの記号が記されているが、それはかなり上の方である。出合付近の兩岸は杉林となっている。

わずかのナメを過ぎると、左手より二本の支流が入る。この支流の出合を過ぎると、水もほんとうに少なくなる。右手からのルンゼ状の支流出合を過ぎると、三びのカレ滝が現われる。この沢唯一の滝である。

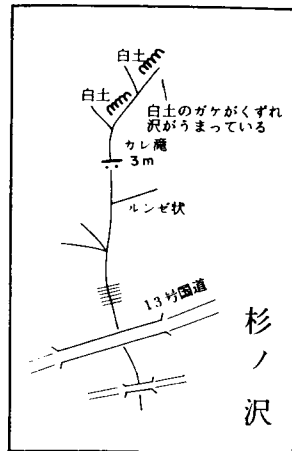
滝の上流は水もまったく流れておらず、戻ろうか進もうかと考えながら歩いてみると、またチヨロチヨロと水が流れてくる。

左手より入る二本の支流出合を越えると、右岸の白い土の壁がくずれて沢を埋めている。ここで遡行を終

上黒森沢(仮称)

一九八三年七月三〇日

円部地区の対岸に、黒森山に突き上げる二本の小沢がある。名前がはつきりしないので、ここでは上黒森

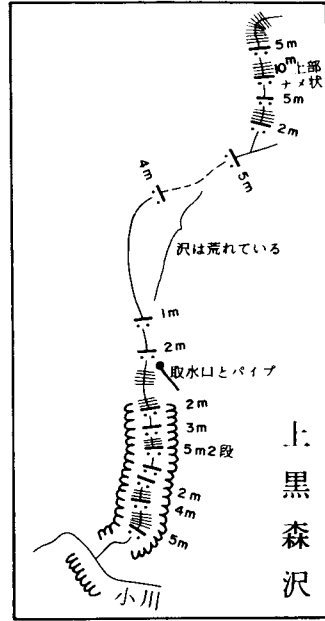


え、左岸の踏跡をたどって杉ノ平の集落に出る。(記)

「タイム」出合(八・五〇)↓沢終了

(九・三〇)

沢及び下黒森沢と呼んでおくことにする。沢の距離は短いが、かなりの高度差があるので、滝があるのでは



ないかと、期待をもってまずは上黒森沢へと入谷する。

一二時五〇分、遡行開始。歩きはじめるとすぐゴルジュ帯となり、滝がかかって険悪な感じとなる。まず最初は五段。斜瀑でフリクションがよくきき、直登できる。続いて四段。右岸にホールド多く、これも直登である。小滝を越えて五段二段の滝。ここは左岸をシャワーで突破する。あとは小滝となってゴルジュ帯は終

上黒森沢

わった。時間にして二〇分とかならなかつたが、結構楽しい所であつた。この先は荒れた平凡な沢筋が続く。土砂が至る所に押し出されてきている。途中溜沢となる部分もあり、退屈になってきた頃、ようやく岩質が変わって滝が出てき

下黒森沢(仮称)

黒森山東方の尾根は、北側斜面がいやに切り立っている。樹林帯でなければとても下ることができないような急傾斜である。

た。五段滝。直登して上に出るとすぐに二俣。左俣ヘルトをとる。

あとはナメと小滝の連続である。あと五段クラスが二本と、一〇段クラスが一本。いずれも直登して越える。もう源流帯で水量も極少となつてきて、黒森山北面に広がる伐採地へ出る。遡行終了一三時五〇分。

「タイム」 出合(一二時五〇) ↓ 遡行 終了(一二時五〇)

一九八三年七月三〇日

一四時四五分、下降を開始する。すぐ左手が急峻なルンゼとなつた。あまり急すぎてここは下れない。ひたすら樹林帯を下る。やがて右手も